

う え ん こ た ん が わ  
上古丹川水系河川整備基本方針

平成13年5月

北海道

# 上古丹川水系河川整備基本方針

## 目 次

1.	河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1)	流域の概要	1
(2)	治水の現況	1
(3)	流域の自然環境	1
(4)	河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	2
2.	河川の整備の基本となるべき事項	3
(1)	基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	3
(2)	主要な地点における計画高水流量に関する事項	3
(3)	主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	4
(4)	主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する 事項	4
(参考図)	上古丹川水系流域概要図	5

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 流域の概要

上古丹川水系は、その源を北海道久遠郡大成町の北部山地に発し、山間部を北から南に流下し、途中支川クンジョ川を合わせ、大成町上浦において日本海に注ぐ、流域面積5.2km<sup>2</sup>、幹川の流路延長3.3kmの二級河川である。

河川名は、一説によると、アイヌ語のウエン・コタンに由来し「悪い・部落」の意と言われている。

流域内の土地利用状況は約85%が山林で占められており、支川クンジョ川合流点の下流から沿川に集落が形成されている。

### (2) 治水の現況

大成町を含む後志・檜山沿岸に、平成5年7月12日の北海道南西沖地震に伴う津波により、家屋半壊2戸、床上浸水8戸、床下浸水5戸に及ぶ大被害が発生した。これを契機として平成6年より後志・檜山沿岸の河川で高潮対策事業を行っており、上古丹川については平成12年より着手している。

### (3) 流域の自然環境

上古丹川の法区間は河口から上古丹橋までの0.08km区間であり、全てが感潮区間である。河岸はコンクリート擁壁で、ほぼ垂直となっている。河床は礫や大礫からなり、平瀬の形状を呈している。水際にはオオイタドリを主体とした植生が繁茂しているが、樹木は見られない。魚類はウグイ等数種が確認されているのみである。

また、上古丹川流域の気候は、降水量は7～11月に多く、流域内に位置する大成町の年平均降水量は約1,000mm、年平均気温は約10℃である。流域の地質は、主に先第三紀の粘板岩・砂岩及びチャートからなる。

上古丹川の中上流域ではチシマザサブナ群団を主体とした自然植生となっており、ササ類やヤナギ類などの河岸植生も豊富であり、キタキツネやヒグマなどが生息し、セキレイ科の鳥類なども確認されている。また、河道は急勾配で礫質の河床堆積物は薄く、所々で粘板岩・砂岩及びチャートの露頭が見られる。魚類としては比較的急流を好むルリヨシノボリが確認されている。

下流域から河口部ではエゾイタヤシナノキ群落を主体とした自然植生で、河岸植生としてはオオイタドリやハマナスが点在し、鳥類ではセグロカモメ、クロガモや冬場にはオジロワシなどが確認されている。また、河道は平瀬化して単調であるが、ウグイやルリヨシノボリなどが河床の礫間等に生息していることが確認されている。

以上の様に、多様な魚類が生息することから、河川の利用については、釣りなどが行われているが、現在、水利用はされていない。

#### (4) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、治水事業の現状、河川の利用状況ならびに河川環境を考慮し、次のとおりとする。

災害の発生の防止及び軽減に関しては、上古丹川流域の社会・経済的な重要度と道内の他河川とのバランスを図りつつ概ね30年に1回の確率で発生する規模の洪水に対して安全な流下を図るものとする。

また、平成5年7月12日に発生した北海道南西沖地震による津波被害を踏まえ、同規模の津波に対して被害の防止を図るものとする。

流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全に関しては、関係機関との情報交換など流況の把握を継続し、現況流況の維持に努めるとともに、事業実施にあたっては、動植物の生息・生育環境に配慮し、河道の連続性の確保を行い、現状の河川環境の保持に努めるものとする。

河川の維持管理については、施設管理にあたり操作の確実性を確保するとともに、常にその機能が発揮できるよう良好な状態に保持するなどし、災害の発生の防止に努める。また、河床や水際植生に配慮し、適切な実施に努めるものとする。

なお、以上の実施にあたっては、地域住民や各分野の専門家の意見を踏まえながら、河川の総合的な保全と利用に努めるものとする。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、概ね30年に1回の確率で発生する洪水を考慮して、河口部基準点において $80\text{m}^3/\text{s}$ とする。

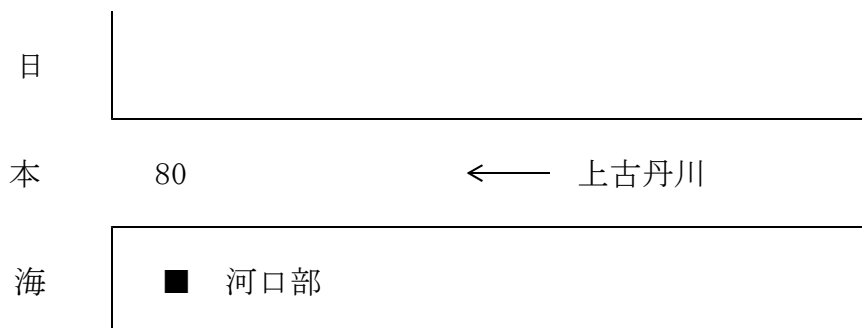
基本高水のピーク流量一覧表

単位  $\text{m}^3/\text{s}$

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
上古丹川	河口部	80	—	80

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

上古丹川における計画高水流量は、河口部地点において $80\text{m}^3/\text{s}$ とする。



計画高水流量配分図 (単位： $\text{m}^3/\text{s}$ )

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 T.P. (m)	川幅 (m)	摘要
上古丹川	河口部	0.035	+2.70	9	※+7.00

(注) T.P. : 東京湾中等潮位

※計画津波高T.P. (m)

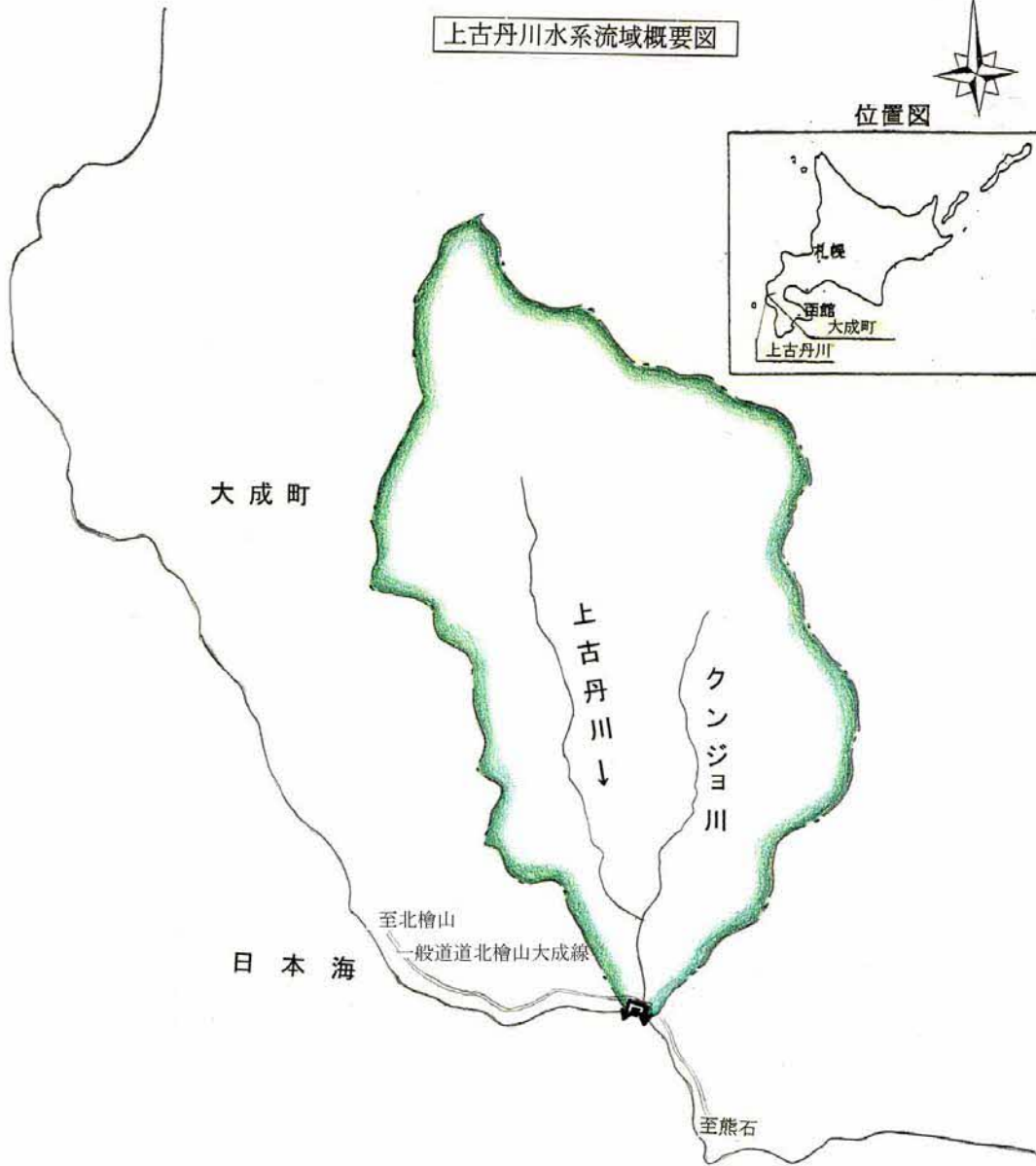
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

上古丹川における流水の正常な機能の維持については、引き続き水質や動植物等に関する調査を行うとともに、現況の河川環境の維持に努めるものとする。

上古丹川水系流域概要図



位置図



凡 例	
■	基準地点
---	流域界

1 : 25,000

